

## 若瀬炭鉱

三本木町伊賀の若瀬炭鉱は地域を代表する大炭鉱の一つ。総務・経理・営業・庶務・資材・運輸の各部署、各地の出張所で数十人の社員が勤務していた。通常業務だけでなく、山神祭(作業の安全を祈願する垂炭鉱山特有の神事)や社員旅行などの機会も多かったため社員間の交流が深かった。閉山後もOBが集まる「若瀬会」が長く催され、昔話に花を咲かせたという。創業者の孫にあたる鈴木恵美子氏(65)は、当時まだ幼な

ソードなどが綴られており、ほとんど語られることのなかった炭鉱の様子を、この会を通じてベテラン社員達から話を聞いた。

自宅には当時の資料(カンテラ、手ぬぐい、法被などの道具や、経理・給料関係の書類、社内組織図、坑内保安図、写真や映像など)が多数残されており、その一部は平成元年に三本木町垂炭記念館が設立された際、展示品として寄贈された。今も手元に残る資料の一つ、長く務めた女性社員が鈴木氏に宛てて当時の会社の様子をいねいに書き記したメモが味わい深い。旅行や社内での撮影した十数枚の写真に、撮影場所、作業内容、同僚達の性格やエピソードなどが記されている。

奥の建物が機械選炭棟。「安全第一」の木製文字が特徴的だった。



## 芦ノ口炭鉱

八木山が宅地造成される以前、現在の恵和町周辺は「芦ノ口山」だった。晴れた日には閑上まで一望できたとこの麓に、現在も同地在住の手嶋弘氏(86)所有の芦ノ口炭鉱があった。八木山一帯は炭層が新旧2枚あり、上層は20センチ程度だが、芦ノ口炭鉱は比較的豊富な下部層を指して、前述の荒氏を含め数名で採掘した。地中は思いのほかに温かく、真冬の寒い日などは坑口や通気孔などか



手嶋弘氏

現在は「市道長町八木山線」の延伸工事が進み、大きく様変わりしつつある。

## ぬくもり届けた ツワモノ達

黒くてよごれやすく、火付きの悪いイメージの垂炭だが、それがなければしのげないつらくて寒い冬があった。その

ぬくもりを絶やさないように、掘り、運び、送り届けた人々の人間模様と時代背景を、貴重な証言から再検証する。

## 監物炭鉱

新庄市の監物炭鉱は、平成13年頃まで操業を続けた「最期の坑内手掘り坑」として特筆すべきヤマである。鉱山主の監物政吉氏(86)は、



監物氏と埋もれ木細工の駒

終戦後の6年ほど近隣で褐炭を採掘した後、鉱山権を譲り、数名の坑夫を雇って月300トンほどを産した。1日で3〜4トンも掘ることもあったという最盛期には、仲買人が買い取りに来て山形・秋田両県に出荷したが、燃料としての需要が減ると自身で販売先まで出向いたり、炭に含まれるフミン酸を土壌改良剤として精製する化学工場に仕入れた。氏はまた、副産物として得られる埋もれ木を用いて、将棋の駒のセットを多数制作しては知人に進呈している。作業は夕食後、機械で成形してヤスリで表面を整え、彫刻刀で掘った文字に金色の絵具をさして仕上げる。王将の駒底には、若い頃から続けているサキソフオン演奏の際にも用いる号「政龍」の文字。採掘のかわら、音楽・工作と自由闊達に取り組んだ生きざまが結晶した秀作である。

## 照越炭鉱

三本木、栗駒、松山など東北亜炭の一大産地だった築館・照越地区。大正2年に石垣基之丞が三本木について鉱区を取得して石垣鉱業所(照越炭鉱)を開業したのがはじまりで、のちに地区内に大小2口の炭鉱ができた。中でも照越炭鉱は2枚の良質炭層からなり、最盛期には夜も地下から掘る音が聞こえたというほど地場産業として発展した。地区民は亜炭とともに生活した。上照越の自治会長だった村上栄一氏(81)は、冬の夕方にはこの家のま



上・紙芝居を披露する村上氏下・その中の一場面(出動)

ある平成20年、「照越炭の時代」を後世に語り継ぎたいという思いから、村上氏ら炭鉱で働いた有志が中心となって「照越炭炭シヤベル会」が結成された。残っている道具や写真を収集、また寸劇と紙芝居を制作して、折りにふれて子ども達に披露している。

## 岩倉炭鉱

平成9年まで現役、宮城県で最後まで操業した亜炭(地区では「栗駒文字樹炭」ともいう)鉱山である。閉



千葉氏と「美麗」亜炭露頭

山は平成12年。栗駒地区は豊富な炭層に恵まれ、雨宮(あまみや)、湯場沢(ゆばざわ)、戸井沢(といざわ)などいくつもの炭鉱があったが、ここは昭和6年頃に鉱山主・千葉毅氏(78)の父が細倉鉱山より買い受けたもの。鉱山法が制定される以前の取引で、開山のための地上(山林)権も含んでいた。戦時中はともにコライト(亜炭の燐炭)を作って東京方面に出荷し、戦後は細倉鉱山で働く労働者とその家族が利用する7つの浴場用の燃料として亜炭を供給した。

最盛期には作業員60人体制で年6000トン生産した。その後は1000トン程の亜炭と平行して、同種鉱床である珪砂も採掘・生産したが、その後保安林解除の事務手続きなどが複雑なため閉山した。その際坑道は埋め戻されたが、トロツコや取り外した鉄製軌道工具などは今も保管している。これらの貴重な実用資料は、跡地の凝灰岩の白と亜炭の黒が織りなす美しい露頭と合わせ、今や貴重な「採掘遺産」。県の亜炭史を語る上で今も存在感を失わないヤマの一つである。

亜炭香古学界おすすめ！ 2013秋の企画！

亜炭香古学は、都市の皮下記憶をたどる旅。歴史と空想のタイムトンネルへ。

TAN TRAVEL

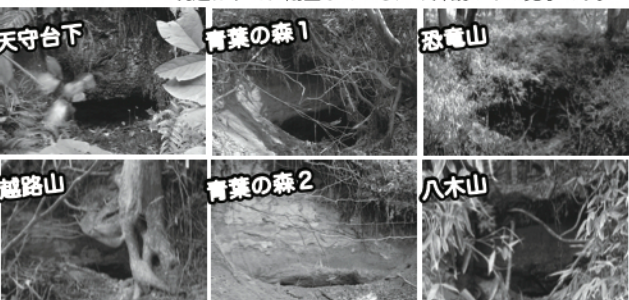
亜炭探掘坑跡  
仙台では、昭和30年代まで、  
仙台市野草園

秋だ！ 亜炭だ！ アナボコだ！

感じるアナボコ！  
見えない地中に思いを馳せる旅  
学べるアナボコ！  
歴史と地誌学を知る一日  
楽しむアナボコ！  
目の前にあるものを愛する

地中の  
口マン紀行  
坑口めぐりバスツアー  
9/8  
出発  
6時間 700円

仙台駅集合  
健康の方のみ  
保全緑地や林間地などに今も残る坑口6ヶ所をめぐる旅。東拓/堂ヶ沢/舟渡家/金剛沢/八幡社/龍ノ口の各炭坑。\*坑道はすでに閉塞しているため外観のみの見学です。



行程表(晴天時) 11:50 仙台駅西口貸切バスターミナル前受付 → 12:00 出発 → 12:40 宮城大青葉山体験学習室前到着(青葉の森坑口探索+WC) 13:25 青葉の森管理センター出発 → 13:40 八木山動物園駐車場 亜炭見学(車窓) 13:45 出発 → 13:50 日本赤十字病院前到着(堂ヶ沢炭坑坑口探索) 14:00 出発 → 14:05 金剛沢入口入口到着(舟渡家炭坑坑口探索) 14:45 出発 → 14:50 WC休憩 15:05 出発 → 15:10 治山の森到着(金剛沢炭坑坑口探索) 15:55 出発 → (トロコ道下り) → 16:15 野草園到着(八幡社炭坑坑口探索+WC) 16:55 出発 → 17:30 仙台市博物館裏到着(龍ノ口炭坑坑口探索) 18:05 青葉城址東崖亜炭見学 → 18:20 仙台駅到着・解散

雨天時は三本木方面に変更します 12:00 仙台駅出発→仙台軽便鉄道七北田駅跡→洞雲寺→三本木亜炭記念館→山畑装飾古墳群→花の湯の裏の坑口鑑賞→松山山車軌道鑑賞

奇景と異形の  
建築物を見る  
山アナボコと  
川埋木  
9/22  
出発  
3時間 1500円

仙台駅集合  
忘れられた万葉の工芸材料「川埋木」。幻となった川埋木文化がなんと阿武隈川流域で現代もいきている！ 今再び開かれる歴史のパンドラの箱！



行程表 9:50 仙台駅西口バスターミナル前受付 → 10:00 出発 → 10:40 熊野堂横穴墓群見学 → 11:10 出発 → (仙台南IC) → 11:50 国見SA(昼食) → 12:30 出発 → 13:30 福島県伊達市・保原総合公園内「旧亀岡家住宅」到着・見学の後、敷地内公園管理棟多目的スペースに移動 → 14:00 座談会「川埋木のお話」→ 16:00 座談会終了 → 16:15 保原総合公園より仙台方面へ出発 → (この間SAでの休憩はありません) 17:30 仙台駅解散

旧亀岡家住宅 明治30年頃伊達郡伊達崎村(現在の桑折町大字伊達崎)に亀岡正元によって建てられ、のちに子孫が旧保原町に寄贈し、移築復原された擬洋風建築。外観はモダンな洋風、内部は純和風の書院造り。特に八角形の展望室、風見鶏、とんがり屋根などに洋風が強く感じられるが、丸森産、秋田産、紫檀、黒柿、阿武隈産の埋木などの建築材も見事である。折上格天井等にも注目したい。

トンネル  
課外授業  
もやし劇場  
4時間 なんと0円  
10/12  
出発

市営地下鉄  
愛宕橋駅集合  
懐中電灯及び  
長靴を持参  
愛宕下水力発電所導水トンネル



時間割 13:00 愛宕橋駅集合 → 13:10 愛宕大橋を渡って河川敷に移動 → 13:30 1時間目「歴史」発電所の由来・愛宕山横穴墓群見学 → 2時間目「理科」亜炭層の見学・太陽光による亜炭焚きつけ → 14:10 発電所跡見学 → 3時間目「社会」向山のくらし+亜炭事件簿 14:40 4時間目「国語」句集の朗読 15:10〜 放課後 準備運動ののちトンネル探検・かたいたと亜炭の温もり体験(雨天時はすべて中止となりますので御了承下さい)

愛宕下水力発電所 1920(大正9)年仙台電氣工業(株)が、名取郡六郷村への電気供給を目的に事業認可を得て建設したもの。発電用水は大橋下流32.0m地点に潜堰を築き、右岸の取水口から一部トンネルを通して発電所内の開放型反動水車へ導いた。全長約2km。

◆上記の3ツアーはいずれも終了しています。ご興味のある方は自力でご旅行ください◆目的地はすべて実在ですが亜炭交通社は架空の旅行会社です。ツアーの運営は「亜炭香古学」の企画の一環として仙台市市民文化事業団が行ないました◆面白いアナボコ情報がありましたらお寄せください

掘りおこした歴史を掘りおこしたい  
亜内墓古ツアー 検索

上記代金は1名様ご利用の場合の金額です。出発日は本広告掲載日の前週の予約状況に基づいて掲載しているため、最少乗客人数に満たない場合は中止となる場合がございます。予めあらかじめご了承ください。くわしい旅行条件書をお読みください。事前にご確認の上お申し込みください。

お申し込み  
お問い合わせ

ATAN TRAVEL  
A 亜炭交通社